

7月・8月の管理ポイント

平成20年6月25日



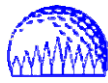
株式会社 トモグリーンケミカル

いよいよ本格的な夏がはじまります。

今年は、空梅雨でなくしっかりと雨が降っているので、その後の猛暑による土壤の蒸れ(根上り)が心配されます。サマーディクラインが発生しやすいコンディションですが、水コントロールを上手く行って、夏に耐えられるグリーンを作っていきます。

ホームページアドレス
<http://www.tomo-green.com/>

第94号

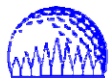


レボ (REVO)

梅雨明け後の根上がり対策に...

梅雨明け後の高温は、土壤中の水分が多いと一気に根上がりしてしまう原因となります。レボを定期散布してある土壤では、土壤中の気層の割合が多いのでこういった症状を軽減できます。高温なので、ついつい散水し過ぎになってしまいがちな時期ですが、レボ処理で根上がりの原因となる余分な土壤水分を除去しましょう。

使用量：2ml/m² 散布水量：200ml～1L/m² 散布回数：1ヶ月に1回



アクアダクト・アクアダクトSWDG

ドライスポットが発生してしまったら...

ドライスポットが発生してしまったら、治療剤としてアクアダクト、アクアダクトSWDGを発生箇所及びその周辺に散布します(但し、レボを定期散布しているゴルフ場さまはレボの1000倍液をスポット処理して下さい)。アクアダクトSWDGは微粒剤タイプなので、スポット処理には最適で、カップ切りなどの後に処理すると芝の活着が良くなります(SWDGは我が国には無いタイプの細粒製剤で、散水分散型です)。

使用量

アクアダクト：1回目は2.5ml/m²で散布し、回復の状態を見ながら1週間後に1～2.5ml/m²で散布(散布水量0.5～1.0L/m²) アクアダクトSWDG：10～20g/m²を必要に応じて1週間毎に散布

※ 2剤とも非常に安全性が高いが、高温時(気温30℃以上が予想される日中)は控えてください。



コ・エンザ

梅雨時期のストレスのかかった芝生には...

7月中旬までは、降雨が多く、日照不足のため植物内の活性が低下し、芝生が軟弱になります。

コ・エンザ処理により、植物内の酵素反応を円滑にし、弱った芝生の回復に努めましょう。

使用量：ベント1～2g/m² 1L/m²散布 コウライ3～4g/m² 1L/m²散布



バイボン乳剤・ショットガン

害虫発生にあわせて...

7月、8月はシバオサゾウムシ、タマナヤガ、スジキリヨトウ、シバツトガの大切な防除シーズンです。

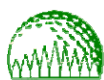
特にシバオサゾウムシは、越冬した幼虫が羽化して、発生数も大幅に増加します。

が類が若令幼虫の時期にシバオサゾウムシとの同時防除をお勧めします。

害虫の活動が活発になる夕方～夜間に速効性のバイボンまたはショットガンで効率的に防除しましょう。

2005.6.1バイボン乳剤は、タマナヤガ、シバオサゾウムシ成虫の登録を取得しましたので是非ご利用下さい。

使用量：バイボン乳剤2000倍 0.3L/m²、ショットガン1000倍 0.3L/m²



グリーンメカ・マリンパワー・光合成細菌

芝の呼吸過多による糖消費と土壤菌数の回復に...

(光合成細菌研究会に入会下さい)

7、8月は高温による芝の呼吸量が増加し、糖含有量は1年で最も減少します。糖が少なくなると特に根に影響を与えるので、グリーンメカでしっかり補給していきましょう。

梅雨明け後(7月下旬)は、土壤が高温多湿で酸素不足になり、硫化水素など根に直接影響を与える有害ガスが発生しやすくなります。光合成細菌とマリンパワーを組み合わせることによって、嫌気性の土壤(排水の悪いどぶ臭い土壤)を改善し好気性の有用菌を定着させましょう。

使用量：グリーンメカ5～10ml/m² マリンパワー2～4ml/m² 光合成細菌1～10ml/m² 各1L/m²以上

葉面吸収について考えてみよう

最近、ゴルフ場の管理には葉面吸収効果が高い肥料が利用される場面が多くなってきています。しかし、実際にこういった成分が吸収されやすいか、よく判らないのが現状です。そこで今回は、「作物の栄養生理最前線 渡辺和彦著」より各種有機・無機物質の葉面、経根吸収について紹介してみました。

供与方法	葉面吸収			経根吸収	
	新葉	莖	根	新葉	莖
移行部位					
グルコース	3	3	4	1	1
酢酸	2	2	3	1	1
尿素	5	5	5	2	3
グルタミン酸	3	4	3	2	2
プロリン	2	2	2	1	1
ウラシル	4	2	2	1	1
チアミン	2	2	1	5	5
アスコルビン酸	4	4	4	2	2
塩化コリン	4	5	5	5	5
ホスファチジルコリン	0	1	0	0	0
2, 4-D	1	2	0	1	1
リン酸	1	2	1	5	5
塩化カルシウム	0	0	0	5	5

注：5段階表示で、数字の大きいほどその部位への転流が多いことを示す。なお、葉からのカルシウムは移行分布が0になっているが、莖からは上位葉に転流する

